

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（単施設の研究用）

西暦 2017年 5月 19日作成

研究課題名	日本産科婦人科学会周産期登録データベースを使用した 反復常位胎盤早期剥離と妊娠分娩転帰に関する研究
研究の対象	2012年1月から2016年12月までに分娩し、日本産科婦人科学会周産期登録データベースに登録された常位胎盤早期剥離症例(予定登録数: 4000~9000例)を対象とする。
研究目的 ・方法	<p>常位胎盤早期剥離(以下、早剥)は突然発症し、重症例では子宮内胎児死亡や母体の播種性血管内凝固症候群を合併する母児ともに重篤な疾患である。早剥の発症を減らす有効な方法はまだ確立されていないが、早期発見および早期治療が望ましく、リスクを評価し慎重に管理を行い妊婦への啓蒙が重要である。本研究では、早剥の症例を早剥既往のある例とない例に分類し、患者背景と妊娠分娩転帰を比較し、早剥既往が次回妊娠に及ぼす影響を検討することを目的とする。</p> <p>日本産科婦人科学会周産期登録データベースにすでに登録されているデータをもとに早剥の症例を早剥既往のある例とない例に分類する。2群間で患者背景、特に早剥のリスク因子と妊娠分娩転帰（母体転帰と新生児転帰）を比較し、早剥既往が次回妊娠に及ぼす影響を検討する。</p>
研究期間	西暦 2017年 7月 20日 ~ 西暦 2018年 12月 31日
研究に用いる 試料・情報 の種類	日本産科婦人科学会 周産期登録データベースより 年齢、初産率、喫煙、既往歴・合併症に加え、 妊娠中：妊娠高血圧症候群、子宮内感染、前期破水、子宮内胎児発育不全、胎児機能不全 分娩時：分娩週数、分娩方法（経膈分娩か帝王切開分娩）、生産か死産、子宮内胎児死亡（IUFD）、臍帯動脈血 pH、アプガースコア、新生児仮死、SGA（small for gestational age） 分娩後：母体産褥異常（分娩時異常出血、播種性血管内凝固異常）、新生児形態異常、新生児集中治療室入院、新生児の異常（疾患、臨床症状）を用いる。
<p>本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先まで電話またはFAXでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはございません。</p>	

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（単施設の研究用）

問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒232-0024 （所在地）横浜市南区浦舟町 4-57

（所属機関）横浜市立大学附属市民総合医療センター 総合周産期母子医療センター

（研究責任者）高見 美緒

電話番号：045-261-5656（代表） FAX：045-253-5784